



みなみっ子だよ

令和6年1月②

考える子
やさしい子
元気な子

岡山市立御津南小学校

天災は 忘れたころに やってくる

令和6年は能登半島の大地震、飛行機事故、九州地方の大火災など、大きな災害、事故で始まりました。1月17日は29年前に阪神淡路大震災の起きた日です。この後、東日本大震災や熊本地震などが起きています。一瞬にして平穏な日常が奪われてしまう災害は、他人ごとではありません。この御津地域でも、西日本豪雨の被害があったと聞いています。南海トラフ地震も発生確率が増してきていると言われています。日頃の備えと避難のための心得や訓練が必要です。災害は「いつでも、どこでも、だれにでも」起きることとして危機意識をもっておきたいと思います。



地震を想定した避難訓練



緊急地震速報音を活用して避難訓練を行いました。緊急地震速報はテレビなどで聞いたことがありますが、携帯電話からも発せられます。この音を聞いた時に、素早く身を隠すなど自分を守る行動ができるように心構えをしておきます。大きな地震が来るまでの、わずかな時間に安全な行動ができるようになっておきたいです。

砂防教室(土砂災害に備えて)



土砂災害から命を守る

3つのポイント

- ① 土砂災害警戒区域かどうか確認！
- ② 気象情報に注意！
- ③ 土砂災害警戒情報が出たら全員避難！

2学期(10月)に、県の防災砂防課の方に来ていただき、「砂防教室」を実施しました。学区には土砂災害の危険区域が多く、小学校もそのエリアに含まれています。土砂災害の種類やメカニズム、日頃からの備えについて学びました。家庭での備えにつなげてほしいと思います。

わたしらしく！あなたらしく！輝け御津南っ子

災害が発生した場合、小学校は避難場所・避難所になります。体育館等を利用することになりますが、備蓄品や機材は体育館だけではなく、正門下の道路沿いの倉庫にも入っています。毎年、市の危機管理課が食料の賞味期限の確認などを行っています。

いざという時に備えて！！



御津南小学校は海拔38.3mの場所にあります。洪水、地震、津波の危険の際には避難所として利用できますが、土砂災害警戒区域のエリアにあるため、「土砂災害」時には利用できないことになっています。市が作成しているハザードマップで、各地区の危険箇所を確認しておく必要があります。

南小の備蓄倉庫（正門下、道路沿い倉庫）



備蓄倉庫には毛布や水、食料、床に設置する簡易ベッドなどが備え付けられています。災害時に活用されるものですが、季節や避難者の数などによっては十分な量があるのか不安はあります。各家庭でも避難時の持ち物や水などの備蓄を心がけておく必要があります。（3日分の水や食料を確保する必要があると言われていました。）御津公民館で秋に開催された「防災キャンプ」でも、避難時の心得として知っておくといいいことが取り上げられていました。能登半島地震の状況を毎日目にして、何かできないかと考えます。温かい料理を食べることに罪悪感を感じる場合もあります。しかし、この教訓を御津地域でもいかせるように、備えについて考えておきたいです。子どもたちが学校にいる時に、災害が発生する場合があります。危機意識をしっかりとっておきたいと思えます。